

黄色いチラシ

 荻田印刷 TEL 046-241-8990
 FAX

1981年1月創刊 毎月1日発行

編集発行人：荻田 豊 上荻野車庫前

西山を守る会

 活動状況はブログで、カンパは口座に！
<http://nishiyamawomamorukai.web.fc2.com>
 郵便振替口座番号：00260-1-41948

練馬区立牧野記念庭園に

7月に開催したヒオウギお花見会に東京都立大学の牧野標本館の方がDNA調査のために来場されました。これにより、当紙は植物学者牧野富太郎博士を知りました。そこで、10月12日(水)に博士が亡くなるまでの30余年を過ごした地を訪ねました。

☆牧野富太郎と牧野標本館

まず最初に、牧野富太郎と牧野標本館のことを知るために、都立大学牧野標本館のホームページを転載させていただきます。

〔牧野富太郎〕

牧野富太郎博士は、明治維新の時代に初めて日本に入ってきた西洋の近代植物学を独学で学び、自ら日本の植物をくまなく調査・採集して、それを広く世界の学会に紹介しました。博士が命名した植物の学名は、1500を超えます。

牧野博士は、日本の植物分類学の草分けであると同時に、日本人科学者の草分けでもありました。

牧野博士は、江戸時代末期の文久2年(1862)に土佐・高岡郡佐川村(現・高知県高岡郡佐川町)の裕福な商家の長男として生まれました。正式な学歴では、小学校中退ということになりますが、寺子屋や私塾などで和漢学に加え、英語、オランダ語、さらには物理学、生理学、植物学など、西洋の近代科学を多岐にわたり学びました。そして、地元の高知県で自ら植物採集を始め本格的に植物学を志すようになったのです。

その後、明治17年、22歳になった牧野博士は上京し、東京帝国大学(現・東京大学)の植物学教室に出入りを許されます。そして明治26年には、東京帝国大学理科大

学の助手に任ぜられ、名実ともに植物学者の道を歩み出します。しかし、上司である教授たちとは、良好な人間関係を築くことはできませんでした。

その一方、生来金銭感覚のなかった牧野博士は、研究のために必要と思った書籍は非常に高価なものでも全て購入するなどして、郷里の財産も使い果たしてしまいました。ついには多額の借金をすることになって生活も困窮します。それでも、壽衛夫人を始め周りの人々に支えられて、植物の研究に打ち込んでいきました。そして、94歳でなくなる直前まで、日本全国をまわって膨大な数の植物標本作製し、熱心に日本産植物の研究を続けました。植物標本は、牧野博士が個人的に所蔵していた分だけでも40万枚に及びました。

〔牧野標本館〕

牧野標本館は、日本の植物分類学の基礎を築いた故牧野富太郎博士(初代名誉都民)の没後、遺族から寄贈された未整理標本(牧野標本)約40万点を整理し、教育・研究のための学術資料として活用することを目的として、1958年に東京都立大学の1施設として設立されました。

牧野標本は、御遺族から寄贈された当初は新聞紙の間にはさまれ、その上に採集記録のデータが記入

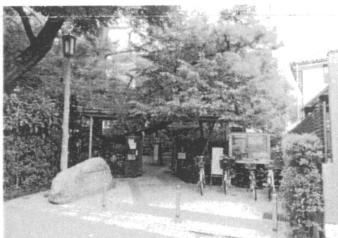
されただけの未整理の状態でした。

その後、植物名を同定し、新たにラベルを作り、台紙に貼付するという整理作業が長年行われてきました。現在までにそのほとんどが整理され、重複標本を除いた16万点余の牧野標本が標本庫に所蔵されています。また、重複標本は国内外の標本館との標本交換に利用され、多くの新たな標本を得るのに役立ってきました。1991年

東京都立大学の八王子市南大沢への移転にともなって、牧野標本館もリニューアルされ、現在に至っています。

☆練馬区立牧野記念庭園を訪ねる

前記の牧野標本館は一般人の見学施設ではありません。そこで、その代わりという訳ではありませんが、博士が大正15年から亡くなるまでの30余年を過ごした住居と庭の跡地の練馬区立牧野記念庭園(昭和33年開園)を訪ねました。



ここ3年、電車やバスの利用は控えています。意を決して、海老名駅まで車で行き、小田急、山手線、西武池袋線と乗り継いで、大泉学園前駅に。記念庭園は駅から

徒歩5分のところにありました。住所は練馬区東大泉6-34-4、入園料は無料、開園時間は午前9時から午後5時、休園日は毎週火曜日でした。

面積は約780坪で、正門を入ると受付の管理室と講習室、敷地の一番奥に記念館(常設展示室と企画展示室)、書屋展示室、トイレなどの建物が草木の邪魔にならないように配置されていました。

博士の胸像の廻りには、アズマザサの変種で博士が昭和2年に仙台で発見し、妻・壽衛への感謝と愛情を込めてスエコザサという和名を与えた笹が茂っていました。



☆お馴染みの植物も

受付でいただいたパンフレットには、植物14点とその配置図が載っていました。その中のウバユリ、シロヤマブキ、キンモクセイがあり、共に博士命名とありました。この3点は番掛館山にもありますので、嬉しくなりました。

9月上旬、中村好至恵さんが、同園のインスタグラムにヒオウギの開花が載っていたと知らせしてくれ、だいぶ遅い開花ですと話したことがありました。

そこでそのヒオウギを探しました。すると講習室の北側にある見本園に二株ありました。種袋をつけているのは1本だけで、どちらも葉はまだ青々としていましたが、少し貧弱に見えました。その原因は、見本園を囲むように、ソメイヨシノ・フクロクジュ・センダイ

ヤという名の3種類の桜の木が植えられており、これが日当りを悪くしているからなのでしょう。写真撮る私を見て、ヒオウギに気づいた母親が娘に、「まだ袋が開いていないわ。これが開くと中から黒い実・ぬばたまが顔を出すのよ」と話しているのが聞こえました。

☆生誕160年記念特別展

同園では、今年は生誕160年記念の年であるとし、4月から4回に分けて特別展を企画し、10月15日(土)から12月18日(日)まで第3弾の「牧野富太郎の植物研究・高知県立牧野植物園の資料より」を開催しています。運悪く私は展示替えの時期に訪れましたので、特別展は見られませんでした。

☆NHK連続テレビ小説

正午前後の1時間園内にいましたが、その間、平日にもかかわらず入園者は途切れませんでした。4、5名の奥様グループから、「神木隆之介が主演だって」と、博士をモデルにした2023年春のNHKテレビ小説「らんまん」の話も聞かれました。

☆出身地には

出身地の高知県には、県立牧野植物園と佐川町牧野公園があります。

県立牧野植物園は高知市の五台山にあり、四国唯一の植物園として親しまれています。昭和33年に開園した後も「牧野富太郎記念館」など多くの施設ができています。また牧野公園は、佐川町出身の博士により贈られたソメイヨシノの苗を植えたことを契機に桜の名所として整備され、昭和33年に公園内の町道が完成したときから「牧野公園」と称しています。